



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第八一号）

穀雨こくう

四月二〇日



半月

伊勢を舞台にした映画『半月の月がのぼる空』が全国で上映されています。伊勢出身の橋本紡氏の原作は、発行部数は一四〇万部を超えるという人気小説。愛読者の間では「半月」と呼ばれ、舞台の伊勢で、ゆかりの地を巡る「巡礼」が人気といえます。

全国に先がけて上映された伊勢の進富座の初日に見に行きました。伊勢市長の挨拶をはじめ、揃いの半被はなびを着た地元有志の実行委員会のお出迎え、取材記者の多さなど、地元が力を注いでいるのがよくわかりました。

これまでも伊勢志摩は映画のほか、テレビドラマにいたっては数知れないほど映画化されてきました。そのほとんどが風光明媚ふうこうめいびな海岸線や伊勢神宮などシンボリックな風景が映し出されていたのですが、この「半月」では、主人公が入院する山田赤十字病院や、シャッターの下りた夜の新道商店街、河崎の町並みなど、むしろ生活感のある地が選ばれ、ロケされたのが特徴でしょう。観光地ではない、素顔の伊勢が紹介されたのがむしろ新鮮でしたが、それが普通の高校生の生活では当たり前なのかもしれません。少しレトロな画面に、伊勢の町はなじんでいました。

便利なロケ地マップが、伊勢志摩フィルムコミッションから発行されています。これを片手に巡ると、見慣れた風景もまた違って見えるかもしれません。

「半月」ファンの聖地にもなっているという虎尾山。映画では砲台山とされていますが、そこで「伊勢の町が見える場所」という台詞があります。新緑の美しい季節になったことですから、手始めにまずここから行ってみようかと思っています。

文 千種清美

